

公益財団法人 がんの子どもを守る会
Children's Cancer Association of Japan
〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
電話:03-5825-6311(代表)
<http://www.ccaj-found.or.jp/>

がんの子どもを守る会

検索







 公益財団法人 がんの子どもを守る会

2014年度事業報告書

2014年4月1日~2015年3月31日

CCAJ ANNUAL REPORT
Apr.01,2014~ Mar.31,2015

CONTENTS

 理事長あいさつ	1
 組織概要	2
 会の歴史	4
 2014年度収支報告	6
 2014年度事業概況	
①療養援助事業	11
②相談事業	12
③治療研究事業	16
④総合支援施設運営事業	18
⑤小児がん・難病対策	19
⑥支部活動	20
⑦広報・啓発・募金活動 等	22
⑧国際活動	24
⑨奨学金事業	26
⑩ボランティアコーディネート・研修会	26
⑪調査研究協力	27
⑫2014年度年次大会開催	27
⑬企業・団体からのご協力	28
 寄付・募金者一覧	29

がんの子どもを守る会とは

1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもと設立され、子どもの難病である小児がんに関する知識の普及、相談、調査・研究、支援、宿泊施設の運営、その他の事業を行い、社会福祉及び国民保健の向上に寄与することを目的としています。小児がんは医学の進歩に伴って「不治の病」から「治る病気」になりつつあります。しかし、小児がんの患児とその家族はさまざまな問題を抱えているのが実情です。当会は患児・家族が直面している困難や悩みを少しでも軽減すべく、多くの方々の支援のもとに活動をしています。

理事長あいさつ

公益財団法人がんの子どもを守る会
理事長 山下 公輔



2014年度事業報告書の発行に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

公益財団法人がんの子どもを守る会は、小児がんで子を亡くした親たちの、「自分たちと同じ苦しみを繰り返す家族のいない世の中をつくりたい」、という願いのもとに1968年（昭和43年）設立され、爾来現在に至るまで小児がん患児・家族に対する様々な支援を中心に、幅広く事業を展開して参りました。

近時の一つの節目として、公益財団に移行した2012年度以降、それまでの数年に亘り常態化しておりました運営赤字を解消し、会の事業の持続的発展を確実なものにすべく、運営方針・体制の改編・強化の努力を続けて参りました。お陰様でその努力が着実に実り始めたこと、新たな篤志の方々からのご寄付による支えもあり、2014年度は事業収支の正常化を果たし、新年度に向け明るい一歩を踏み出すことができましたことをご報告させていただきます。

このように、事業の維持・強化と経済的な安定の両立が実現しつつあることは大変喜ばしいことではありますが、これを持続的なものにするためには、なお一層の努力が必要と考えております。この考えのもとで2015年度の事業計画及び予算を策定し、今年度以降も引き続き心を引き締めて、会の使命の実現に努めて参る所存でございます。

詳細は、本事業報告書をご高覧頂きたいと思っておりますが、2014年度は、新しい事業として高等学校他に就学する小児がん経験者を対象とした「アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金」給付事業を事務局として開始し、合計30名の小児がん経験者に一人当たり30万円の奨学金を給付いたしました。2015年度以降は、対象にがんで親を亡くしたがん遺児を加え、「アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金」として拡大し、継続的に運営されることとなっております。更に、近年の小児がん経験者支援強化の方針に沿ったも

う一つの動きとして、当会がこれまで支援してまいりました全国の小児がん経験者の会リーダーの集いがきっかけとなり、小児がん経験者が自ら全国ネットワークを構築・充実させ、経験者の輪を大きく広げていこうという動きが具体化したことも、大変喜ばしい新たな展開であります。

2014年度はこれらの新しい展開に加え、これまで長年に亘って続けてまいりました、「小児がん家族に対する相談事業」、「小児がん家族への療養費援助事業」、「小児がんに関する治療研究助成事業」、「小児がんに関する社会の理解の向上を目指した啓発活動」そして「難病の子どもを持つ家族のための総合支援施設運営事業」等の主要事業を、事業計画に沿って着実に展開し成果を上げることができました。

小児がんを取り巻く環境に目を向けますと、2014年度は、二年前に改訂された国のがん対策推進基本計画に謳われた、小児がんに関する医療体制改革の枠組みが一通り整い、具体的な第一歩を踏み出した年でもありました。今年度以降は、この新たな体制が実質的な効果を発揮し、小児がんの患児・家族に優しい世の中が実現されるよう、患児・家族の立場からの努力を継続して参りたいと考えております。

2015年度は、上述のような外部環境の変化を見つめながら、当会として長年に亘って展開し成果を上げてまいりました諸事業の着実な推進を核として、医療の進歩とともに増えていく小児がん経験者の、教育・就労等の課題にもより積極的に取り組んでいきたいと考えておりますが、これらを含む今年度の事業計画の詳細は、別途公表資料をご参照ください。

小児がんが「治る病気」になってきたという大変喜ばしい変化にもかかわらず、小児がんの発症を抑える手立ては残念ながら無いのが現実であり、患児・家族に対する幅広い支援事業の持続的推進という当会の使命に変わりは無く、その遂行に向け、私を含め理事及び事務局職員一同、誠心誠意努力をする所存であります。

皆様の日頃のご厚情に感謝申し上げますとともに、一層のご支援ご協力を誠心からお願い申し上げます。

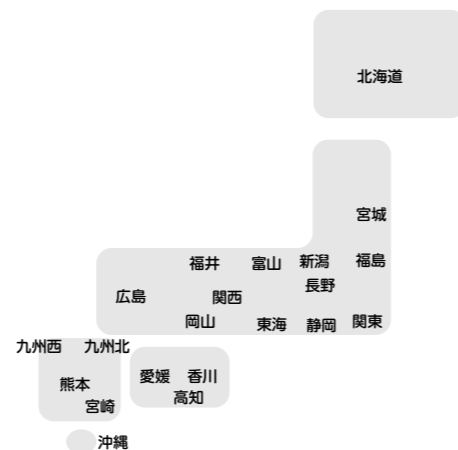
当会の事業

- | | |
|--------------------------|--|
| （事業）1 小児がんに関する知識の普及・啓発事業 | 5 小児がん・小児難病に関する宿泊施設運営事業 |
| 2 小児がんに関する調査・研究事業 | 6 小児がん経験者及びがん遺児（主たる生計維持者をがんにより失った遺児）への奨学金の給付事業 |
| 3 小児がんに関する相談事業 | 7 その他この法人の目的を達成するために必要な事業 |
| 4 小児がんに関する支援事業 | |

- 名称** 公益財団法人 がんの子どもを守る会
- 設立** 1968年10月31日
- 設立趣旨** 当会は、1968年10月に小児がんで子どもを亡くした親たちによって、小児がんが治る病気になってほしい、また小児がんの子どもを持つ親を支援しようという趣旨のもとに設立されました。
- 主務官庁** 内閣府
- 主たる事務所** 浅草橋 住所：〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
TEL：03-5825-6311(代表) FAX：03-5825-6316
- 従たる事務所** 亀戸 住所：〒136-0071 東京都江東区亀戸6-24-4
TEL：03-3638-6551(代表) FAX：03-3638-6553
大阪 住所：〒541-0057 大阪府大阪市中央区北久宝寺町2-3-1
TEL：06-6263-1333(代表) FAX：06-6263-2229
- 組織** 理事 11名（理事長1名、副理事長2名）
監事 2名
評議員 12名
職員 18名
普通会員 2,264名 賛助会員281名（法人21社、個人260名）
- 支部** 当会には全国に21の支部があります。各地域の会員ボランティアにより組織され、地域の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

21支部

北海道、宮城、福島、長野、新潟、福井、富山、関東、静岡、東海、関西、岡山、広島、香川、愛媛、高知、九州北、九州西、熊本、宮崎、沖縄



役員名簿

- 理事長** 山下 公輔 親/ブライスウォーターハウス・パース株式会社 シニアアドバイザー
- 副理事長** 細谷 亮太 聖路加国際病院 顧問/当会嘱託医
- 近藤 博子 親/元 当会ソーシャルワーカー
- 理事** 橋都 浩平 株式会社ドリームインキュベータ 常勤監査役
元 東京大学医学部附属病院 小児外科 教授
- 松井 秀文 認定NPO法人ゴールドリボン・ネットワーク 理事長
元 アフラック 会長
- 張 光陽 親/当会九州北支部 幹事
- 増子 孝徳 親/のぞみ法律事務所 弁護士
- 坪田 起久恵 親/当会福井支部 代表幹事
- 森下 さふみ 親/当会関西支部 幹事
- 片岡 巖雄 親/株式会社アド・ダイセン 取締役
- 石川 幹雄 当会事務局長
- 監事** 高橋 和子 親/当会九州北支部 代表幹事
- 三川 勝夫 親/三川会計事務所 代表
- 評議員** 河 敬世 日本赤十字社近畿ブロック血液センター 所長
- 深澤 重幸 親/コトブキシーティング株式会社 代表取締役社長
- 西田 知佳子 元 聖路加国際病院 医療社会事業課 ソーシャルワーカー
- 平野 朋美 埼玉県立小児医療センター 地域連携・相談支援センター ソーシャルワーカー
- 平澤 一郎 小児がん経験者/長岡子ども・医療・介護専門学校
- 幸島 静枝 親/当会会員
- 稲田 浩子 久留米大学病院 小児科
- 中村 美智子 小児がん経験者
- 鈴木 中人 親/当会東海支部 代表幹事
- 隈部 俊宏 北里大学病院 脳神経外科 主任教授
- 田中 徹 親/当会会員
- 本橋 由紀 株式会社毎日新聞社 新聞研究本部 記者研修センター 担当部長
- 療養援助委員会** 横山 穰太郎 元 慶応義塾大学 医学部 小児外科
- 星 順隆 元 東京慈恵会医科大学附属病院 輸血部

- 別所 文雄 杏林大学 医学部 小児科
- 黒田 達夫 慶応義塾大学 医学部 小児外科 教授
- 花田 良二 埼玉県立小児医療センター 副院長
- 前田 美穂 日本医科大学付属病院 小児科 教授
- 柳澤 隆昭 東京慈恵会医科大学附属病院 脳神経外科 教授
- 小澤 美和 聖路加国際病院 小児科 医長

調査研究委員会

- 橋都 浩平 株式会社ドリームインキュベータ 常勤監査役
元 東京大学医学部附属病院 小児外科 教授
- 細谷 亮太 聖路加国際病院 顧問/当会嘱託医
- 星 順隆 元 東京慈恵会医科大学附属病院 輸血部
- 岩田 敬治 当会最高相談役
- 山下 公輔 当会理事長

治療研究委員会

- 山下 公輔 当会理事長
- 黒田 達夫 慶応義塾大学医学部小児外科 教授
- 小原 明 東邦大学医療センター大森病院 院長
- 小澤 美和 聖路加国際病院 小児科 医長
- 陳 基明 日本大学医学部附属板橋病院 小児科外来 医長
- 菱木 知郎 千葉県こども病院 小児外科 主任医長
- 丸 光恵 甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 教授

〈専門委員〉

- 野崎 美和子 獨協医科大学 越谷病院 放射線科 教授
- 逸見 仁道 東邦大学 医学部 分子生物学研究室 教授
- 中澤 温子 国立成育医療研究センター病理診断部 部長

海外留学助成委員会

- 河 敬世 日本赤十字社近畿ブロック血液センター 所長
- 岡村 純 国立病院機構九州がんセンター 臨床研究センター 顧問
- 小田 慈 岡山大学大学院 小児血液・腫瘍科/保健学研究科 教授
- 駒田 美弘 三重大学 医学部 小児科 教授
- 中畑 龍俊 京都大学 iPS細胞研究所 副所長
- 石川 幹雄 当会事務局長

名誉顧問

- 日野原 重明 聖路加国際病院 名誉顧問
- 柳田 邦男 作家



会の歴史

1962	設立趣意書作成	1996	東京支部HOPE設立総会 学習ボランティア研修会開始（モデル事業）
1966	NHKカメラリポートで紹介	1997	国際小児がん親の会連盟（ICCCPO）加入
1967	「がんの子供を助ける親の会」準備会	1998	創立30周年記念第30回SIOP国際小児がん学会親の会会議
1968	2.25 「親の会」設立総会 10.31 「財団法人 がんの子供を守る会」として設立許可 11.18 治療研究委員会発足 12.27 緊急医療費援助開始、第1号患者2名に援助金	1999	九州支部、北・西・南の3支部に分割 清瀬小児病院の敷地内にある「たけのこハウス」、東京都中央区にある「あかしハウス」を東京都衛生局より委託（2002年度まで受託）
1969	小児がん全国登録開始	2000	「小児がん患児とその家族の支援に関するガイドライン」刊行 岩田理事長に藍綬褒章
1970	関西支部設立総会 小児がん公費負担について厚生大臣に陳情	2001	「アフラックペアレンツハウス亀戸」が完成、事務所移転
1971	陳情により、小児がん治療費の公費負担が実現	2002	「がんの子どもの教育支援に関するガイドライン」刊行 愛知支部が東海支部となる 広島支部設立総会
1972	九州支部設立総会 北海道支部設立総会 療養費援助を一般と特別に区分し援助開始。特別療養費審査会発足	2003	九州南支部が熊本支部となる 鹿児島支部設立総会 埼玉支部と東京支部HOPEが合併 関東支部となる
1973	映画企画委員会発足 専任ケースワーカー設置	2004	福井支部設立総会 香川支部設立総会 沖縄支部設立総会 「アフラックペアレンツハウス浅草橋」が完成、亀戸より事務所移転
1974	48年度小児がん映画完成公開 静岡支部設立総会 全国登録委員会発足	2006	小児がん経験者の支援と社会への啓発を目的としたゴールドリボン基金を設立 「小児がん経験者のためのガイドライン～よりよい生活をめざして～」刊行
1975	愛知支部設立総会 49年度小児がん映画完成公開 埼玉支部設立総会 パンフレット「こどものがん」刊行	2007	ゴールドリボンウォーキング2007開催（東京） 富山支部設立総会
1976	特定公益増進法人の認定	2008	創立40周年記念事業がんの子どもと家族を支援する公開シンポジウム（千葉） 第1回小児がん経験者自立支援助成金
1978	本会に嘱託医を設置 創立10周年記念講演と映画の会	2009	「アフラックペアレンツハウス大阪」が完成 高知支部設立総会
1979	長野支部設立総会 創立10周年記念・国際児童がん国際シンポジウム	2010	「この子のためにできること 緩和ケアのガイドライン」刊行 福島支部設立総会
1981	新潟支部設立総会	2011	東日本大震災緊急療養援助実施
1984	日本小児がん研究会発足	2012	公益財団法人移行認定 鹿児島支部が鹿児島・宮崎支部となる
1985	第1回日本小児がん研究会（東京）（平成3年以降「日本小児がん学会」）	2013	「小児がん経験者及びがん遺児に対する奨学金給付事業」の認定 岩田最高相談役及び西村顧問に当会より特別功労賞を授与
1986	竹中相談役・顧問に藍綬褒章	2014	奨学金事業「アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度」を開始 厚生労働省に「難病及び小児慢性特定疾病対策・小児がん対策の充足を求める請願書」を提出 文部科学省に「小児がん患児が切れ目なく教育を受けることができる教育整備の充足を求める請願書」を提出 「小児がん経験者のためのハンドブック」刊行 「小児がんの子どものきょうだいの気持ち」刊行 鹿児島・宮崎支部が宮崎支部となる
1989	創立20周年記念・第2回小児がん国際シンポジウム		
1991	小冊子「がんとたたかう子とともに」刊行 宮城支部設立総会		
1993	愛媛支部設立総会 小児がん経験者の会「フェロー・トゥモロー（F.T）」結成		
1994	小冊子「子どものがん」、疾病別リーフレット刊行		
1995	宿泊施設「あかつきハウス」開設 岡山支部設立総会		



2014年度収支報告 (2014年4月1日～2015年3月31日)



正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

科目	公益目的事業	法人会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
財産運用益	1,009,007			1,009,007
普通預金利息	63,469			63,469
定期預金利息	61,057			61,057
投資有価証券利息	884,481			884,481
受取寄付金	232,619,617	55,444,267		288,063,884
特定寄付金	6,074,490			6,074,490
一般寄付金	55,444,267	55,444,267		110,888,534
指定寄付金	13,771,306			13,771,306
がん遺児奨学金指定寄付金	13,771,306			13,771,306
受取寄付金振替額	157,329,554			157,329,554
受取補助金等	9,239,533			9,239,533
受取助成金	2,344,075			2,344,075
受取補助金等振替額	6,895,458			6,895,458
受取利用料	8,064,500			8,064,500
施設利用料	7,211,500			7,211,500
リネン利用料	853,000			853,000
雑収益	3,216,670			3,216,670
雑収益	3,216,670			3,216,670
経常収益計	254,149,327	55,444,267	0	309,593,594
(2) 経常費用				
事業費	266,033,440			266,033,440
人件費	72,690,968			72,690,968
法定福利費	8,713,535			8,713,535
給与	59,239,885			59,239,885
福利厚生費	95,148			95,148
退職給付費用	4,642,400			4,642,400
助成費	24,709,000			24,709,000
療養助成費	12,609,000			12,609,000
治療研究助成費	7,100,000			7,100,000
調査研究助成費	5,000,000			5,000,000
活動費	127,917,579			127,917,579
会議費	1,140,220			1,140,220
旅費交通費	10,221,094			10,221,094
通信運搬費	5,770,130			5,770,130
消耗品費	2,489,038			2,489,038
修繕費	916,007			916,007
印刷製本費	4,337,969			4,337,969
光熱水料費	14,034,499			14,034,499
保険料	1,711,104			1,711,104
諸謝金	1,486,760			1,486,760
業務委託費	37,830,866			37,830,866
広報費	3,309,122			3,309,122
支援費	1,375,000			1,375,000
図書資料費	376,003			376,003
保健衛生費	701,714			701,714
ゴールドリボン制作費	3,035,664			3,035,664
宿泊施設運営費	676,151			676,151
租税公課	9,808,500			9,808,500
リネン賃借料	723,541			723,541
事業協力費	1,693,047			1,693,047
会場費	1,889,385			1,889,385
雑費	2,559,664			2,559,664
保守料	12,540,506			12,540,506
リース料	2,173,838			2,173,838
植栽管理費	859,845			859,845
借地料	845,832			845,832
衛生管理費	3,613,326			3,613,326
消耗什器備品費	1,798,754			1,798,754
減価償却費	32,165,893			32,165,893
建物減価償却額	26,699,921			26,699,921
建物附属設備減価償却額	2,800,353			2,800,353
ソフトウェア減価償却額	497,175			497,175
什器備品減価償却額	2,168,444			2,168,444

科目	公益目的事業	法人会計	内部取引消去	合計
奨学金給付費	8,550,000			8,550,000
奨学金給付費	8,550,000			8,550,000
管理費		32,463,149		32,463,149
人件費		21,075,185		21,075,185
給与		18,323,300		18,323,300
法定福利費		2,750,373		2,750,373
福利厚生費		1,512		1,512
活動費		9,427,908		9,427,908
会議費		12,000		12,000
旅費交通費		1,119,885		1,119,885
通信運搬費		942,135		942,135
消耗品費		268,914		268,914
修繕費		34,560		34,560
印刷製本費		1,080,815		1,080,815
図書資料費		48,332		48,332
保守料		531,096		531,096
リース料		2,268,699		2,268,699
支払報酬		2,030,400		2,030,400
租税公課		74,550		74,550
消耗什器備品費		278,667		278,667
雑費		737,855		737,855
減価償却費		1,960,056		1,960,056
ソフトウェア減価償却額		564,900		564,900
什器備品減価償却額		1,395,156		1,395,156
経常費用計	266,033,440	32,463,149	0	298,496,589
評価損益等調整前当期経常増減額	△11,884,113	22,981,118	0	11,097,005
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△11,884,113	22,981,118	0	11,097,005
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△11,884,113	22,981,118	0	11,097,005
一般正味財産期首残高	660,550,262	△55,219,138	0	605,331,124
一般正味財産期末残高	648,666,149	△32,238,020	0	616,428,129
II 指定正味財産増減の部				
受取補助金等	5,000,000			5,000,000
受取助成金	5,000,000			5,000,000
小児がん骨髄移植基金	5,000,000			5,000,000
受取寄付金	362,301,323			362,301,323
指定寄付金	362,301,323			362,301,323
三重ファミリールーム指定寄付金	1,260,000			1,260,000
海外留学助成制度指定寄付金	4,000,000			4,000,000
施設運営指定寄付金	162,866,550			162,866,550
国際交流指定寄付金	330,000			330,000
がん遺児奨学金指定寄付金	71,025,423			71,025,423
有価証券受贈益	122,819,350			122,819,350
基本財産受取利息	433,935			433,935
特定資産評価益	1,123,804			1,123,804
一般正味財産への振替額	△176,026,318			△176,026,318
指定寄付金	△171,100,860			△171,100,860
受取助成金等	△4,925,458			△4,925,458
当期指定正味財産増減額	192,832,744	0	0	192,832,744
指定正味財産期首残高	1,969,625,024	0	0	1,969,625,024
指定正味財産期末残高	2,162,457,768	0	0	2,162,457,768
III 正味財産期末残高	2,811,123,917	△32,238,020	0	2,778,885,897



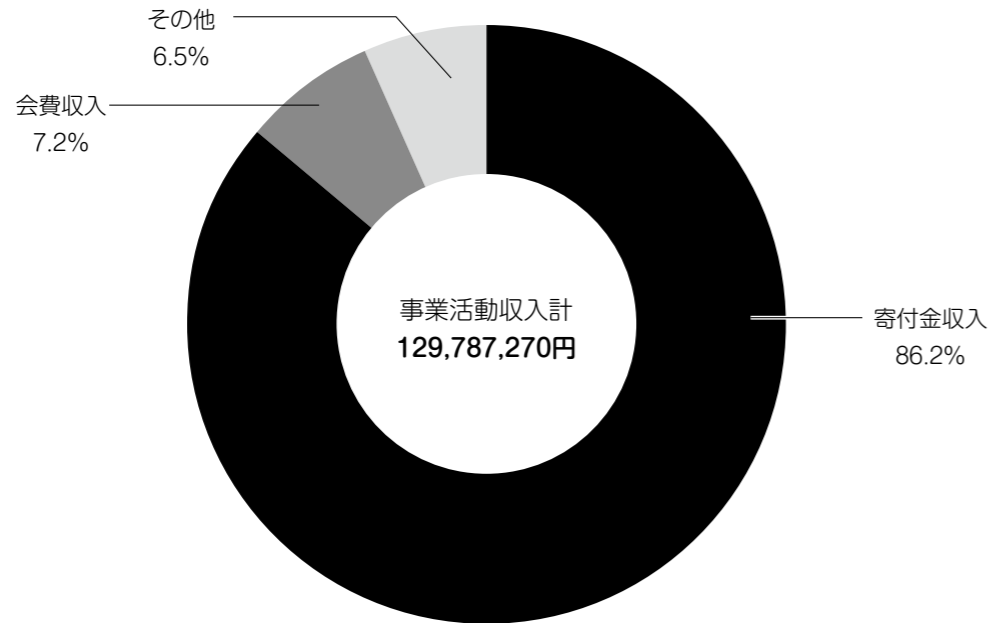
正味財産増減計算書内訳表

(単位：円)

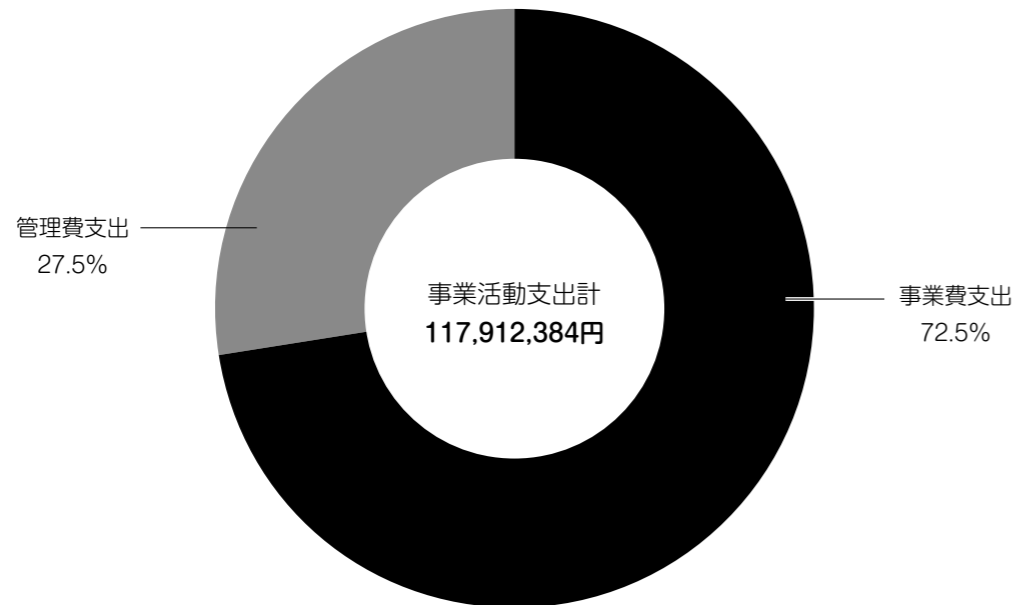
科目	一般会計	AFLACヘアレンツハウス 特別会計	三重ファミリールーム 特別会計	メイン財団 小児がん骨髄移植基金 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特別会計	合計
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
財産運用益	967,666	9,182	2,939	1,276	27,944	1,009,007
普通預金利息	22,128	9,182	2,939	1,276	27,944	63,469
定期預金利息	61,057	0	0	0	0	61,057
投資有価証券利息	884,481	0	0	0	0	884,481
受取寄付金	121,293,024	151,739,554	1,260,000	0	13,771,306	288,063,884
特定寄付金	6,074,490	0	0	0	0	6,074,490
一般寄付金	110,888,534	0	0	0	0	110,888,534
受取寄付金振替額	4,330,000	151,739,554	1,260,000	0	13,771,306	171,100,860
受取補助金等	4,314,075	0	1,716,734	3,208,724	0	9,239,533
受取助成金	4,314,075	0	0	0	0	4,314,075
受取補助金等振替額	0	0	1,716,734	3,208,724	0	4,925,458
受取利用料	184,000	7,577,500	303,000	0	0	8,064,500
施設利用料	184,000	6,724,500	303,000	0	0	7,211,500
リネン利用料	0	853,000	0	0	0	853,000
雑収益	3,028,505	188,165	0	0	0	3,216,670
雑収益	3,028,505	188,165	0	0	0	3,216,670
経常収益計	129,787,270	159,514,401	3,282,673	3,210,000	13,799,250	309,593,594
(2) 経常費用						
事業費	85,449,235	159,514,401	4,060,554	3,210,000	13,799,250	266,033,440
人件費	31,012,380	37,580,588	0	0	4,098,000	72,690,968
法定福利費	3,201,160	4,978,375	0	0	534,000	8,713,535
給与	23,153,820	32,522,065	0	0	3,564,000	59,239,885
福利厚生費	15,000	80,148	0	0	0	95,148
退職給付費用	4,642,400	0	0	0	0	4,642,400
助成費	21,499,000	0	0	3,210,000	0	24,709,000
療養助成費	9,399,000	0	0	3,210,000	0	12,609,000
治療研究助成費	7,100,000	0	0	0	0	7,100,000
調査研究助成費	5,000,000	0	0	0	0	5,000,000
活動費	32,711,608	91,805,576	2,249,145	0	1,151,250	127,917,579
会議費	1,073,358	20,736	0	0	46,126	1,140,220
旅費交通費	9,465,918	690,636	0	0	64,540	10,221,094
通信運搬費	3,200,314	2,310,956	48,490	0	210,370	5,770,130
消耗品費	924,639	1,551,550	12,849	0	0	2,489,038
修繕費	0	894,418	21,589	0	0	916,007
印刷製本費	3,240,957	466,730	0	0	630,282	4,337,969
光熱水料費	0	13,581,483	453,016	0	0	14,034,499
保険料	129,698	1,575,106	6,300	0	0	1,711,104
諸謝金	1,486,760	0	0	0	0	1,486,760
業務委託費	0	37,707,878	122,988	0	0	37,830,866
広報費	3,309,122	0	0	0	0	3,309,122
支援費	875,000	0	500,000	0	0	1,375,000
図書資料費	90,388	274,815	0	0	10,800	376,003
保健衛生費	0	601,714	100,000	0	0	701,714
ゴルドリボン制作費	3,035,664	0	0	0	0	3,035,664
宿泊施設運営費	676,151	0	0	0	0	676,151
租税公課	102,625	9,705,875	0	0	0	9,808,500
リネン賃借料	0	723,541	0	0	0	723,541
事業協力費	1,693,047	0	0	0	0	1,693,047
会場費	1,889,385	0	0	0	0	1,889,385
雑費	1,514,478	812,169	43,885	0	189,132	2,559,664
保守料	0	12,479,574	60,932	0	0	12,540,506
リース料	4,104	2,169,734	0	0	0	2,173,838
植栽管理費	0	859,845	0	0	0	859,845
借地料	0	0	845,832	0	0	845,832
衛生管理費	0	3,613,326	0	0	0	3,613,326
消耗什器備品費	0	1,765,490	33,264	0	0	1,798,754
減価償却費	226,247	30,128,237	1,811,409	0	0	32,165,893
建物減価償却額	100,247	24,882,940	1,716,734	0	0	26,699,921
建物附属設備減価償却額	0	2,800,353	0	0	0	2,800,353
ソフトウェア減価償却額	126,000	371,175	0	0	0	497,175
什器備品減価償却額	0	2,073,769	94,675	0	0	2,168,444

科目	一般会計	AFLACヘアレンツハウス 特別会計	三重ファミリールーム 特別会計	メイン財団 小児がん骨髄移植基金 特別会計	小児がん経験者・ がん遺児奨学金特別会計	合計
奨学金給付費	0	0	0	0	8,550,000	8,550,000
奨学金給付費	0	0	0	0	8,550,000	8,550,000
管理費	32,463,149	0	0	0	0	32,463,149
人件費	21,075,185	0	0	0	0	21,075,185
給与	18,323,300	0	0	0	0	18,323,300
法定福利費	2,750,373	0	0	0	0	2,750,373
福利厚生費	1,512	0	0	0	0	1,512
活動費	9,427,908	0	0	0	0	9,427,908
会議費	12,000	0	0	0	0	12,000
旅費交通費	1,119,885	0	0	0	0	1,119,885
通信運搬費	942,135	0	0	0	0	942,135
消耗品費	268,914	0	0	0	0	268,914
修繕費	34,560	0	0	0	0	34,560
印刷製本費	1,080,815	0	0	0	0	1,080,815
図書資料費	48,332	0	0	0	0	48,332
保守料	531,096	0	0	0	0	531,096
リース料	2,268,699	0	0	0	0	2,268,699
支払報酬	2,030,400	0	0	0	0	2,030,400
租税公課	74,550	0	0	0	0	74,550
消耗什器備品費支出	278,667	0	0	0	0	278,667
雑費	737,855	0	0	0	0	737,855
減価償却費	1,960,056	0	0	0	0	1,960,056
ソフトウェア減価償却額	564,900	0	0	0	0	564,900
什器備品減価償却額	1,395,156	0	0	0	0	1,395,156
経常費用計	117,912,384	159,514,401	4,060,554	3,210,000	13,799,250	298,496,589
評価損益等調整前当期経常増減額	11,874,886	0	△777,881	0	0	11,097,005
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	11,874,886	0	△777,881	0	0	11,097,005
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	11,874,886	0	△777,881	0	0	11,097,005
一般正味財産期首残高	430,414,391	154,577,031	15,466,667	4,873,035	0	605,331,124
一般正味財産期末残高	442,289,277	154,577,031	14,688,786	4,873,035	0	616,428,129
II 指定正味財産増減の部						
受取補助金等	0	0	0	5,000,000	0	5,000,000
受取助成金	0	0	0	5,000,000	0	5,000,000
小児がん骨髄移植基金	0	0	0	5,000,000	0	5,000,000
受取寄付金	127,149,350	162,866,550	1,260,000	0	71,025,423	362,301,323
指定寄付金	127,149,350	162,866,550	1,260,000	0	71,025,423	362,301,323
三重ファミリールーム指定寄付金	0	0	1,260,000	0	0	1,260,000
海外留学助成制度指定寄付金	4,000,000	0	0	0	0	4,000,000
施設運営指定寄付金	0	162,866,550	0	0	0	162,866,550
国際交流指定寄付金	330,000	0	0	0	0	330,000
がん遺児奨学金指定寄付金	0	0	0	0	71,025,423	71,025,423
有価証券受贈益	122,819,350	0	0	0	0	122,819,350
基本財産受取利息	433,935	0	0	0	0	433,935
特定資産評価益	1,123,804	0	0	0	0	1,123,804
一般正味財産への振替額	△4,330,000	△151,739,554	△2,976,734	△3,208,724	△13,771,306	△176,026,318
指定寄付金	△4,330,000	△151,739,554	△1,260,000	0	△13,771,306	△171,100,860
受取助成金等	0	0	△1,716,734	△3,208,724	0	△4,925,458
当期指定正味財産増減額	124,377,089	11,126,996	△1,716,734	1,791,276	57,254,117	192,832,744
指定正味財産期首残高	2,310,704	1,804,005,170	23,699,044	0	139,610,106	1,969,625,024
指定正味財産期末残高	126,687,793	1,815,132,166	21,982,310	1,791,276	196,864,223	2,162,457,768
III 正味財産期末残高	568,977,070	1,969,709,197	36,671,096	6,664,311	196,864,223	2,778,885,897

収入



支出



1 療養援助事業

療養援助事業は、患児が等しく医療が受けられること、療養に伴う経済的負担が軽減されることを目的としています。療養助成には、「一般療養助成」と「特別療養助成」の2種類があります。それぞれ助成対象者、対象事項は以下の通りです。

■一般療養助成

- 対象者**
- 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療を受けている患児の家族
 - 給与所得者：「課税される所得金額（課税所得）」が100万円以下の方／自営業の方：「課税される所得金額」に「専従者給与（控除）額の合計額」及び「青色申告特別控除額」を加算した金額が100万円以下の方

助成対象事項 療養のために必要な諸経費全般

助成金額 3万円（1人1回限りの助成）

■特別療養助成

- 対象者** 18歳未満で小児がんを発症し、申請時20歳未満の抗腫瘍治療を受けている患児の家族
- 助成対象事項** ■入院療養のために必要な諸経費
- ・入院中の患児の面会にかかる費用（宿泊施設等利用の際の滞在費・付添費）
 - ・病院と自宅が片道約150km以上離れている場合の親子1往復分の交通費
 - ・患児の補装具作成のためにかかった経費
 - ・闘病に伴って必要となったきょうだい（未就学年齢）の保育料
 - ・造血幹細胞移植など、主治医が患児の治療上必要と認めたものに対してかかった経費（但し、健康保険の対象とならない薬剤や代替療法等にかかる経費は原則対象外）

助成対象期間 申請書受理日から遡って3ヶ月間

審査 療養援助委員会の審査会（年5回開催）にて、助成内容・金額を決定する。

■本年度決定実績

総額：12,609,000円

	一般療養助成	特別療養助成	骨髄移植加算
申請件数	83件	235件	82件
助成件数	83件	225件	82件
総助成額	2,490,000円	6,909,000円	3,210,000円
備考	助成金額 一律30,000円	平均助成金額 30,707円	平均助成金額 39,146円

一般療養助成及び特別療養助成は、大原小児がん基金、一般財団法人凸版印刷三幸会、日本労働組合総連合会「愛のキャンパス」、大隅百合子基金、NPO 法人酒は未来を救う会、有限会社吉半からの寄付をいただきました。骨髄移植加算については一般財団法人日本メイスン財団からの寄付により運営されました。



2 相談事業

(1) 小児がん相談事業

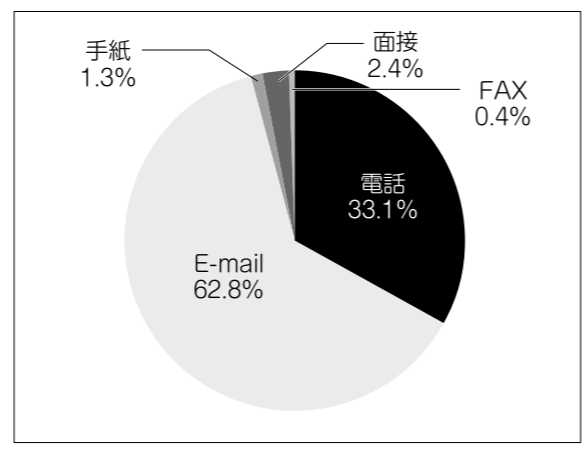
日本では年間約2,000人の子どもたちが、あらたに小児がんと診断されています。当会が設立された当時は不治の病とされていましたが、現在は医療技術の進歩により、小児がん全体の7割から8割が治るようになってきました。一方、未だ年間500人ほどの子どもが亡くなる厳しい現状もあり、小児がんは幼い命を脅かす病気の筆頭であることに変わりはありません。

患児・家族は、数ヶ月から年単位の長期にわたる入院生活を強いられることが多く、それまでの家庭生活や社会生活は一変します。くわえて、告知をどうするか、きょうだいのケアをどうするか、療養にともなう経済的負担にどう対処するか、学校をどうするかなど、家族は多くの問題に直面することとなります。小児がんの強力な治療は子どもの心身への負担も大きく、治療が終了した後も長期的な影響として身体的・精神的不調が残ることも稀ではありません。

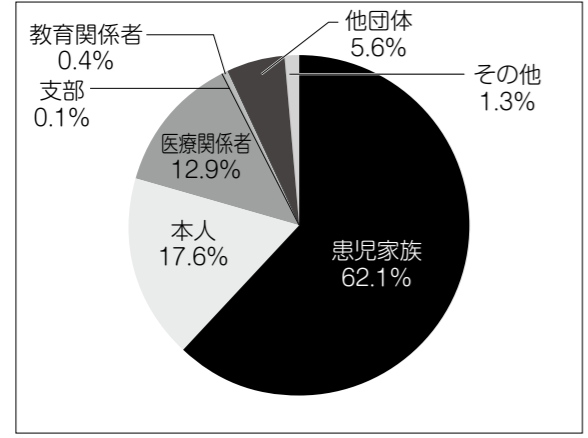
このように多くの不安や悩みを抱える患児・家族に対して、闘病中はもちろん、闘病を終えた後も、また子どもが亡くなった後も、継続したサポートが必要とされています。当会では、1973年に専任のソーシャルワーカーを設置し、以来40年以上相談支援を行っています。本年度は、東京事務所に常駐するソーシャルワーカーが3名体制で、下記のような相談に応じました。

1. 相談方法 (単位：件)

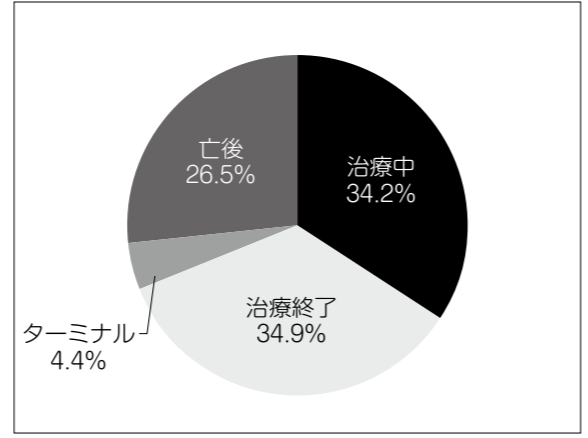
電話	756
E-mail	1,433
手紙	30
面接	52
FAX	10
計	2,281



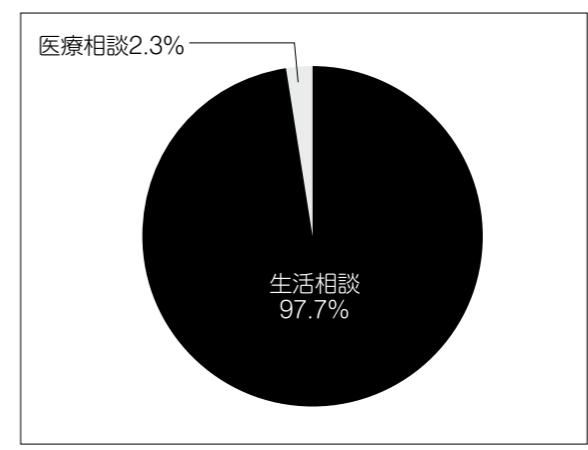
2. 相談者



3. 相談時期



4. 相談内容



■医療相談

(セカンドオピニオン、グリーフワーク、晩期合併症等に関すること)

医療相談内容	割合
セカンドオピニオン	67.2%
晩期合併症	21.0%
その他	8.4%
グリーフワーク	1.7%
告知	1.7%

■生活相談

(受診受療、療養生活、社会復帰、経済的問題に関すること)

生活相談内容	割合
療養生活	55.5%
経済的問題	16.4%
社会復帰	11.1%
受診受療	14.2%
その他	2.8%

(2) 相談会の開催

患児家族が個別に専門医に相談できる機会として、下記の個別相談会を開催しました。

年月日	内容	相談医	会場
2014.10. 8	整形外科分野	川井 章 先生 国立がん研究センター中央病院 骨軟部腫瘍科	東京 (本部)
2015. 1.23	脳神経外科	柳澤 隆昭 先生 東京慈恵会医科大学 脳神経外科 小児脳腫瘍部門	東京 (本部)
2.19	小児がん全般に関すること	細谷 亮太 先生 嘱託医/聖路加国際病院 小児科	東京 (本部)
3.19	小児がん全般に関すること	前田 美穂 先生 日本医科大学付属病院 小児科	東京 (本部)



(3) 子どもを亡くした家族の会

①子どもを亡くした家族の交流会

子どもを亡くした家族の交流やわかちあいの場の提供を目的として、ペアレンツハウス浅草橋（東京）、ペアレンツハウス大阪にて交流会を年6回開催しました。会は、母親の会、父親の会、家族の会、ひとりっ子を亡くされた親の会、闘病期間の短かった方、というテーマを設け、各回とも、当会ソーシャルワーカーの司会のもと、参加者が体験や近況などを話しあい交流を深めました。

②短期集中サポートグループ

子どもを亡くされたことに関する様々な感情の表出や共感の機会の提供を目的として、子どもを亡くされて1年未満の母親を対象にサポートグループを開催しました。

■サポートグループ

本年度は春に開催いたしました。グループの開催前に参加者との個別の事前面接を行ったうえで、ソーシャルワーカーが同席し、5名の同じメンバーで2014年4月15日から6月3日までの毎週1回、原則90分計6回の集まりを持ち、各回とも異なるテーマのもとに話し合いを行いました。6回の集まりの後、再び参加者と個別に事後面接を行いました。

■サポートグループ同窓会

サポートグループが終了した後は、参加者へのフォローアップの目的もかねて、半年後及び1年後の2回にわたり同窓会と称した集まりをもっています。本年度は、昨年度春に開催した1年後と今年度春に開催した半年後の同窓会を行いました。

(4) 小児がん経験者への支援活動

①小児がん経験者の会リーダーの集い

小児がん経験者の会リーダー及びこれから会を立ち上げようとしている小児がん経験者たちが、会を運営していく上での悩みや課題を一緒に考え共有していくことを目的とし、2001年より「小児がん経験者の会リーダーの集い」を開催しています。

本年度は2014年9月21日にペアレンツハウス大阪にて開催し、全国から9グループ18名が参加しました。所属する会を越えて選出された幹事5名が企画・運営を行いました。当日はICCCPO ASIAや前日に行われたシェイクハンズ!の報告の後、事前に配布した会の情報をもとに活動実績の報告や課題について情報交換を行いました。

- 2013年に開催された小児がん経験者の会リーダーの集いで話された「経験者の会に属していない人たちも集える場を作り、つながりを深めたり、地元で出会うことが難しい同じ病気の仲間に出会えるような全国規模のプログラムがあれば」という思いをもとに、新たに「シェイクハンズ!」という団体が立ち上げられました。当会は、大阪と東京で開催された「全国小児がん経験者の集い シェイクハンズ!」の後援と助成を行いました。

②活動費の支援

小児がん経験者の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は4団体に計8万円の活動費の支援を行いました。

③FellowTomorrow (フェロー・トゥモロー) /WISHへの支援

1993年に発足した小児がん経験者の会「Fellow Tomorrow (フェロー・トゥモロー)」の2014年6月8日に開催された総会及び9月7日、2015年2月8日開催された定例会に当会ソーシャルワーカーが参加し、運営の助言や参加者への支援を行いました。また、2000年に発足した東海地域の小児がん経験者の会「WISH」について、6月15日に開催された定例会に当会ソーシャルワーカーが参加、及び運営の助言や参加者の支援を行いました。

④スマートムンストーンキャンプ

2014年7月26日から28日まで、山梨県北杜市清里のキープ自然学校にて、第18回スマートムンストーンキャンプ(SMS)を開催いたしました。SMSは告知をされて小児がんと向き合ってきた子どもたちを対象にし、1998年に3人の医師、看護師などからなる運営スタッフによって始められたキャンプです。2011年からは、キャンプで築かれた子どもたちのつながりを深くしていきながらも、新しい仲間を迎えられるよう運営スタッフ主体のキャンプから「小児がん経験者が主体となって運営するキャンプ」を目指し運営形態を変え、2012年度からは当会の事業として、企画運営はボランティアを中心とした実行運営グループが行うことになりました。今年は参加者22名、ボランティア17名、キャンプリーダーの稲田浩子先生(久留米大学小児科)と小児がん経験者のボランティアリーダー3名を含む実行運営グループ6名の45名で開催されました。なお、本事業は毎日新聞東京社会事業団のご寄付によって運営されています。

(5) 親の会支援

①親の会連絡会

小児がん親の会が、会の運営や活動を共有しあうことを目的として年1回の集まりを持ち情報交換等を図る場として、1997年より「全国小児がん親の会連絡会」を開催しています。

18回目となる今回は、2014年6月8日、飯田橋レインボービルを会場に午前・午後の2部構成で実施しました。初参加となる3団体を交え、全国から18団体28名が集う会となりました。

午前は、近藤博子副理事長の挨拶に続き、「親の会だからできること～強みと役割～」というテーマを設定し、少人数にわかれたグループワーク形式で各親の会同士の意見交換を行いました。前回までのアンケートでいただいていた「参加者同士でゆっくり話し合える時間が欲しい」という声を反映した新たな試みでした。参加された方々からは、互いに額を寄せながら、活動経験の長い方によるアドバイスがあったり、お子さんの闘病経験についての話をされたり、日頃の活動で感じられていることなどを交わされ、会場は始終にぎやかな場となりました。「グループの中で一致したことや大切な事」を発表いただいたところ、多くのグループで共感や安心感、話せる場などのキーワードがあがりました。

午後は、当会の2014年度年次大会のプログラム(27ページ参照)に合流し、新しい小児がん診療体制についての講演の後、興味のある分科会にご参加いただきました。



②活動費の支援

全国の病院内や疾病別に発足している小児がん親の会は、子どもが小児がんにかかった親たちが身近に相談できる場所として大変重要です。各会に対して、運営や設立に関する相談に応じるほか、小児がん親の会に対して活動費の支援を行っています。本年度は、21団体に計49万5千円の活動費の支援を行いました。

(6) きょうだいの支援

①富士山にアタック!!2014

小児がんの子どもをきょうだい向けのイベントは少なく、出会いや交流の場が少ないのが現状です。当会は2001年より毎日新聞社の支援を受けて小児がん患児のきょうだいのための富士山キャンプを行っています。13回目となる本年度は7月26日から28日の日程で小児がんの子どものきょうだい13名に、ボランティア、医師及び当会職員を含む合計29名が参加しました。例年、富士山登山については登頂を目指すグループと自分のペースで登れるところまで登るグループに分かれておりましたが、本年度は、参加者で共に過ごす時間を大切にすること、また登山の安全面から、登頂ではなく「登れるところまで登る」を目指したプログラムを設定しました。本年度も2008年より開催している「きょうだいのお話会」を開催し、貴重な時間を過ごすことができました。

協賛：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社、公益財団法人原田積善会、株式会社スタイリングライフ・ホールディングスプラザスタイルカンパニー、コールマンジャパン株式会社、MAMMUTSPORTSGROUPJAPAN

②きょうだいの交流会 てんとうむし

当会では、きょうだい支援の一環として富士山にアタック!!参加者の「富士山だけじゃなくもう少し会いたいね」「旅行じゃなくて気軽に参加できたらいいな」という声から、2011年より小児がんのきょうだいの交流会を開催しています。開催にあたっては、小児がんの子どものきょうだいが中心となって企画・運営をし、「てんとうむし」と名付けられました。これはテントウムシ（天道虫）が日本では太陽に向かって飛ぶといわれていること、また、外国では『子どもの守り神』といわれていることから、「子どもたちが守られ、その子の太陽に向かい自由に飛ぶ」という意味を込めています。同じ小児がんの子どものきょうだい同士が、こころにとめてある想いを語り合い、分かち合い、同じ立場の人がいるという繋がりや安心感をもてる場として、10月26日の親睦会と3月29日の交流会の計2回を開催し、充実した時間を過ごしました。

3 治療研究事業

(1) 治療研究助成

子どもたちを小児がんのさまざまな脅威から守るため、その予防、早期の適切な診断、治療成績の一層の向上と後遺症のない治療、トータルサポートによるよりよい療養生活などの実現に寄与する調査研究の促進を目的とし、小児がん経験者に関する研究、小児がんに関するトータルケアの研究、小児がんに関する基礎系・臨床系の研究の3課題で募集いたしました。審査の結果、20件（助成総額7,100,000円）を助成いたしました。助成金の一部についてはロート製薬株式会社からも基金からのご寄付も活用させていただきました。

<2014年度 治療研究助成一覧>

（助成期間：2014年10月1日～2015年9月30日）

氏名（敬称略：順不同）	所 属	研究名称
早川 晶	神戸大学大学院医学研究科内科系講座 小児科学	乳児急性リンパ性白血病における長期生存症例の晩期合併症に関する調査研究
木下 義晶	九州大学大学院医学研究院 小児外科分野	Alpha-fetoprotein (AFP)-L2分画による小児固形悪性腫瘍の新規診断システム開発
安永 正浩	国立がん研究センター東病院 臨床開発センター・新薬開発分野	急性リンパ性白血病を標的にしたAntibody-drugconjugateの開発
末原 義之	順天堂大学 整形外科	小児骨軟部腫瘍の融合遺伝子及び新規遺伝子異常に対するのタンパク質発現解析
嶋田 明	岡山大学病院 小児科	小児RAEB/RARB-Tの後方視的遺伝子解析
大隅 朋生	国立成育医療研究センター 小児がんセンター 血液腫瘍科	ABL1/PDGFRB再構成陽性の始発小児急性リンパ性白血病に対するダサチニブの安全性・有効性を検証するパイロット試験
弦間 友紀	国立成育医療研究センター 小児がんセンター	本邦における小児がん長期生存者に対する晩期合併症としての呼吸機能評価
大杉 夕子	大阪医療センター 小児科	小児白血病研究会 (JACLS) 参加施設におけるANLL91、AML99を受けた急性骨髄性白血病経験者を対象にした晩期合併症とQOLに関する後方視的調査研究
高橋 都	国立がん研究センター がん対策情報センター がんサバイバーシップ支援研究部	小児期・AYA期発症がん経験者の性的発達と情報ニーズに関する研究
上原秀一郎	大阪大学大学院 医学系研究科 外科学講座小児成育外科学	小児悪性固形腫瘍における癌幹細胞と上皮間葉転換機構の解明
門内 一郎	宮崎県立こども療育センター 整形外科	骨肉腫におけるNDRG2遺伝子の分子機構解明と治療応用への基礎的研究
本多 昌平	北海道大学病院 消化器外科I	肝芽腫のシスプラチン耐性に関わるDNAメチル化異常の解明と予後予測分子マーカーの確立
時政 定雄	大阪市立大学大学院 医学研究科 発達小児医学	急性骨髄性白血病を発症した先天性血小板減少症の新規原因遺伝子の探索（副題）ips細胞の樹立を通して血小板産生不全と白血化の原因を探る
金沢 英恵	国立成育医療研究センター 感覚器・形態外科歯科	放射線治療の晩期合併症から歯と目を守る-3Dアテニューエーター作成システムの開発
杉谷 善信	公益財団法人がん研究会がん研究所	小児悪性脳腫瘍（髄芽腫）の自然治癒のメカニズム
秋山 政晴	東京慈恵会医科大学附属病院 小児科	網膜芽細胞腫における再発マーカーとしての尿中ポリアミン測定の有用性
坂口 公祥	浜松医科大学医学部附属病院	再発急性リンパ性白血病細胞の抗悪性腫瘍薬に対するinvitro薬剤感受性の検討
貝沼 雅彦	帝京大学医学部附属病院 外科学講座 肝胆膵外科	小児肝臓の分子病態解析に基づいた分子標的治療法の開発
坂下 一夫	長野県立こども病院 血液腫瘍科	次世代シーケンサーを用いた若年性骨髄球性白血病の移植後微小残存病変測定法の開発
細野 亜古	国立がん研究センター東病院 小児腫瘍科	晩期合併症の軽減を目指した難治性小児がんに対する免疫療法の開発～新規がん抗原エピトープペプチドの探索～

(2) 海外留学助成

小児がん領域における若手オンコジストの育成並びに当領域における研究のより一層の向上・発展を図ることを目的とし、海外の大学あるいは研究施設に留学し小児がん領域における基礎・臨床の研究を行う臨床研究者に対して奨学助成を行う「PediatricOncologyResearchFellowship」(PORF 海外留学助成制度)を2001年度から実施しています。

本年度も西日本小児がんセミナー、中外製薬株式会社の協力を得て、公募を行い下記の通り助成いたしました。

■本年度助成

地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター 中田 佳世

【研究テーマ】 Population-basedを用いた、英国と我が国（大阪）における小児と思春期・若年成人（AYA）世代のがん罹患・生存・死亡率の国際比較と小児がん登録システムの我が国への適応



4 総合支援施設運営事業

(1) アフラックベアレンツハウスの運営事業

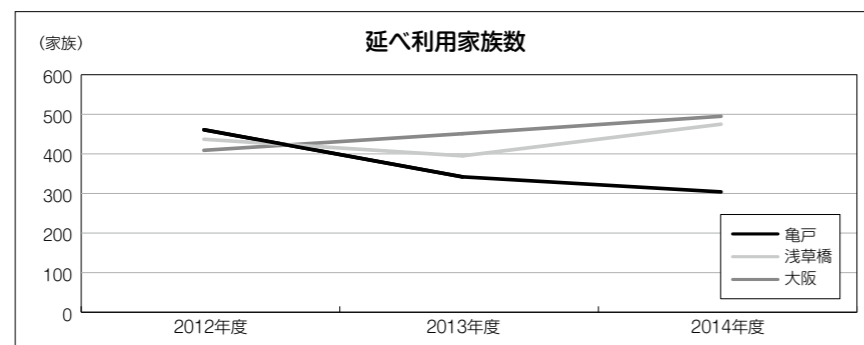
アフラックベアレンツハウスは小児がんなど難病の患児、家族のための日本で最初に建設された総合支援センターです。遠隔地から治療のために来ている付き添い家族のための宿泊施設としてだけでなく、治療中、治療後の患児、家族が抱える不安や問題に対して当会のソーシャルワーカーが相談に応じる等様々なかたちで支援をしています。亀戸（東京都江東区亀戸、2001年2月開設）、浅草橋（東京都台東区浅草橋、2004年12月開設）、大阪（大阪府大阪市中央区、2010年1月開設）の3施設は、いずれも開設以来順調に運営しています。運営費用については、アフラック並びにアフラック社員の皆様及び全国の代理店（アフラック全国アソシエイツ会）他多くの方々からの支援を得ています。

尚、2015年3月末時点で、3棟合わせて延べ115,000人を超える患児・家族の皆様にご利用いただいております。

■利用状況

延べ利用家族数（2014年4月1日～2015年3月31日）

亀戸（16室）／304家族
浅草橋（17室）／475家族
大阪（12室）／495家族



(2) その他の宿泊施設

①あかつきハウス

1995年にオープンした「あかつきハウス」は、遠隔地から東京都中央区内の病院で治療をされる患児とその家族のための宿泊施設です。区立住宅「あかつき住宅」の1戸を借り受け、管理・運営しています。利用料は1部屋2,000円（宿泊代と維持管理費として）です。2014年4月1日より2015年3月31日までの間、延べ25家族の利用がありました。

②三重ファミリールーム

三重ファミリールームは、三重大学医学部附属病院、および近郊の病院に入院中あるいは小児科外来等に通院中の小児慢性疾患患児とその家族のための宿泊施設で、2階建ての建物に和室4室があります。三重ファミリールーム運営委員会（三重大学附属病院小児科内）と当会で管理・運営しています。利用料は1泊1,000円、昼間の部屋風呂の利用は300円です。2014年4月1日より2015年3月31日までの間、延べ100家族の利用がありました。

5 小児がん・難病対策

当会では設立以来、新薬の承認、医療費の公費負担の実現など小児がん患児・家族が抱える制度上の問題点を訴え、発信しつづけてきました。

本年度は児童福祉法の改正案が5月に国会で可決され、多くの小児がん患児が利用している「小児慢性特定疾患治療研究事業」が変更されることになり、療養環境に大きな変化が起きた年になりました。

児童福祉法が改正されたことにより、今まで対象にされていなかった他の小児難病が新たに加わることになりました。一方、医療費の患者負担分が見直されたことにより、今まで負担がなかった重症認定の家族にも負担が生じるようになるなど、患児・家族の経済的な面で大きな変化が出てきました。

幼い患児を抱える家族には医療費以外の費用が多く支出されることから、当会では会員を中心に、医療関係者、支援者の皆様にも協力をいただき30,000筆を超える署名とともに医療費負担の軽減を訴える請願書を提出しました。

また、入院中・退院後の学習・教育も小児がんになった子どもたちには欠かすことのできない要素であることから、文部科学省に対して患児が安心して教育を受けられるような制度の見直しや配慮をしてもらう事も訴えました。



文部科学省へ請願書の提出

年月日	主な活動
2014. 7. 23	厚労省へ小慢・小児がん対策の充実を求める請願書提出（署名18,708名分）
7. 23	東京都小児がん診療連携協議会へ出席
8. 6	文科省へ患児の教育環境の整備の充足を求める請願書提出（署名15,498名分）
9. 5	関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会へ出席
10. 21	東京都がん対策推進協議会へ出席
2015. 3. 16	東京都小児がん診療連携協議会へ出席
3. 31	小児がん中央機関アドバイザーボードへ出席

■当会が参画している委員会及び各地域のがん対策協議会等

国、地域：中央機関アドバイザーボード、関東甲信越地域小児がん医療提供体制協議会
都道府県：東京都、大阪府（小児がん部会）、富山県、岡山県、愛媛県、福岡県、沖縄県



6 支部活動

当会には全国に21の支部があります(2015年3月31日現在)。各地域の会員ボランティアにより組織され、地元の医療関係者等の協力を得ながら、各地のニーズにあわせた相談会や交流会などを開催し、患児・家族と医療関係者のコミュニケーションを深めるとともに、患児・家族のよりよい療養生活の実現を目指して活動しています。

(1) 講演会、交流会、相談会、総会等

開催月	支部	内 容
5月	富山	シンポジウム(支部総会)
	福井	10周年記念支部総会映画「風のかたち」上映&トークシンポジウム
	静岡	ポルシェジャパン 小児がん患児試乗体験
	広島	支部総会・交流会
6月	北海道	はるにれの会(子どもを亡くした親の集い)
	関西	のぞみトークきんき2014「小児がん治せる時代に目指すべき治療」「小児がんにおける高次脳機能障害の対応」
7月	香川	支部総会・講演会
	宮城	家族の語らいのつどい(東北大学病院)
	新潟	あおぞらの会(子どもを亡くした親の会)、支部総会、講演会
	福井	ピアサポートカフェ(嶺南地区)
	静岡	交流会
	愛媛	野外定例BBQ
	関西	夏休みお楽しみ企画「奈良県川上村 中井溪谷自然塾」
	香川	院内相談会、講演会、相談会
	九州北	第41回九州北支部交流会「小児血液・腫瘍疾患の合併症とその予防について」「がんの子どもへの就学や治療後の復学について」
	九州西	「風のかたち」上映会・トークショー
8月	宮崎	講演会
	岡山	交流会
	香川	交流会、子どもを亡くした親の会、四つ葉のクローバーの会
9月	熊本	お子さんを亡くされたご家族の集まり・支部交流会
	宮城	そらの会(子どもを亡くした母親の会)
	富山・福井	のぞみ北陸小児がん交流会 in 金沢
10月	東海	虹の会(子どもを亡くした親の会)
	北海道	講演会「入院している子どもから学んだこと」
	宮城	いも煮会
11月	静岡	ポルシェジャパン試乗招待
	北海道	はるにれの会(子どもを亡くした親の集い)
	宮城	交流会
	長野	支部総会
	新潟	あおぞらの会(子どもを亡くした親の会)
	富山	虹のかけはし(子どもを亡くした家族の交流会)
	福井	ピアサポートカフェ(坂井・あわら地区)
静岡	静岡県東部健康福祉センター共催交流会	
岡山・広島・香川・愛媛・高知	第2回中国四国支部合同交流会(松山)	
高知	風のかたち上映会&トークショー、交流会、子どもを亡くした親の会	

開催月	支部	内 容
11月	九州北	ピアサポート研修会
12月	富山	小児がん医療講演会
1月	福井	ピアサポートカフェ(福井・奥越地区)
2月	宮城	研修会・パネルディスカッション(小児がんのこれから)
	関西	近畿小児がん研究会公開シンポジウム「小児がん経験者の社会的自立支援」
	高知	高知小児がんフォーラム「みんなで考えよう。小児がんの子どもたちのこと。」
3月	九州北	第42回九州北支部交流会「小児がん治療の今」「経験者を交えた交流会」
	福島	お子様を亡くしたご家族の会
	福井	ピアサポートカフェ(丹南地区)
東海	三重大講演会・相談会「子どもたち中心の医療を目指して」	

※他、各支部では様々なイベントや啓発活動、募金活動等を実施しました。

支部活動の風景



夏休みお楽しみ企画「奈良県川上村 中井溪谷自然塾」

(2) 支部連絡会

支部活動の活性化、および質の向上を目的に、2014年6月8日、および10月18日から19日の2回にわたり支部連絡会を開催しました。本年度は、ピアサポート研修やがん対策についての情報及び意見交換を継続的に実施するとともに、当会としてどのように小児がん患児・家族の支援に取り組むか、また何が大切なのか等をディスカッション中心に議論し一定の方向性を確認いたしました。この連絡会は、「長期療養の子どもたちとご家族」の支援に取り組む武田薬品工業株式会社より助成いただきました。



ディスカッションの様子



7 広報・啓発・募金活動 等

第19回がんの子どもを守る会公開シンポジウム

2014年11月28日(金)～11月30日(日)、岡山コンベンションセンターにて、第56回日本小児血液・がん学会学術集会(会長:小田慈)、第12回日本小児がん看護学会学術集会(会長:猪下光)、第19回公益財団法人がんの子どもを守る会公開シンポジウムを下記の通り開催いたしました。

後援:厚生労働省、岡山県、岡山市、公益社団法人日本小児科学会、特定非営利活動法人日本小児外科学会、一般社団法人日本小児看護学会

■公開シンポジウム「小児がん経験者が大人になること」

(日本小児血液・がん学会学術集会、日本小児がん看護学会学術集会との共同開催)

日時:2014年11月30日(日)10:00～11:50

座長:真部淳(聖路加国際病院 小児科)

丸光恵(甲南女子大学 看護リハビリテーション学部)

テーマ:1.「病弱教育」一連続性のある多様な学びの場での教育支援をめざしてー

日下奈緒美(独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所)

2. 成人移行期の小児がん患者の心身医学的問題

石崎優子(関西医科大学 小児科学講座)

3. 小児がん経験者が就労を続けるための工夫

福井郁子(CoCo 訪問リハビリ・看護ステーション)

4. 小児がん経験者の性・生殖機能の問題

富岡晶子(東京医療保健大学 医療保健学部 看護学科)

5. 小児がん経験者のための社会資源・社会制度の現状と課題

樋口明子(がんの子どもを守る会 ソーシャルワーカー)

6. 小児がん経験者が大人へと成長する過程で向き合う課題

延哲也(久留米大学病院小児がん経験者の会 SmileDays 代表)

参加者:約370名

■ワークショップ「きょうだいのガイドラインをつくらう」

日時:2014年11月30日(日)13:10～14:40

座長:小澤美和(聖路加国際病院 小児科)

2013年開催した「きょうだいについて語ろうガイドライン作成に向けて」での討議やその後いただいたご意見をもとに作成委員会が目次案を作成した経緯を、座長である小澤美和先生からご紹介いただき、参加された皆様からご意見を募りました。

参加者:約140名

・本プログラムは、公益財団法人 JKA より助成を受けて開催しました。



■小児がんの子どもたちの絵画展

当会では、多くの方に小児がんのことを知っていただくことを目的に、1998年より小児がんの子どもたちが描いた絵を展示し「小児がんの子どもたちの絵画展」を開催しています。全国から寄せられた49作品を展示し、2014年11月28日～11月30日の3日間で約750名の方々にご来場いただきました。

専用のダウンライトも完備された展示ホールは、来場者からもとても見やすいと好評でした。寄せられたアンケートにも、「出品のご家族に感動を伝えたい(看護師)」「これからも仕事を頑張ろうと思う(医師)」「今ある命を懸命に生きようと思った(一般)」「子どもたちの心は最後まで病に負けていないということが伝わりました(出品者家族)」など、感動や感謝の言葉を綴っていただきました。

・本プログラムは社会福祉法人丸紅基金の助成を受けて開催しました。



■チャリティマラソン(雨天中止によりトークショーへ変更)

日時:2014年11月29日(土)早朝

特別ゲスト・講演:有森裕子さん

参加者:一般及び医療関係者など合わせて約60名の参加がありました。



◀ブース展示

ブース出展

小児がんの子どもたちへの支援を目的にした各種チャリティーイベント会場や小児がん関連の会場の会場にて、来場された方々に、小児がんの現状や当会の活動等への周知活動や募金活動を実施しました。

ゴールドリボンによる啓発活動

ゴールドリボンとは、小児がんに対する理解や支援をよびかけるときに使われる世界共通のシンボルマークです。ゴールドリボンをあしらったアクセサリを作成し、小児がんの啓発を兼ね、募金をされた方へ贈呈しました。

本年度も多く企業の有志が集まった方々に様々な工夫を施した広報・募金活動を行っていただきました。

※500円以上の募金につき1つ、ゴールドリボンのバッジやストラップをお渡しして小児がんの理解や支援を広めています。本年度は、ピンバッジ10,250個、ストラップ6,605個、スワロフスキー付ピンバッジ475個のご支援をいただきました。



ゴールドリボンイラスト



ピンバッジタイプ



ストラップタイプ

常設募金箱の設置

店舗のレジ横などに設置できるオリジナル募金箱を作成し、支援者の方々のご協力のもと、広く募金活動を展開することができました。全国で38か所に設置のご協力をいただいております。



◀常設募金箱

支援自動販売機設置

売上の一部が当会に寄付される支援自動販売機があります。全国30か所に設置していただいております。

支援自動販売機 ▶



8 国際活動

国際小児がん親の会連盟 (ICCCPO) への参加と協力

■ICCCPO (TheInternationalConfederationofChildhoodCancerParentOrganizations) 年次総会への参加

2014年10月21日から25日にカナダのトロントにてSIOP（国際小児がん学会）と同時開催された第21回ICCCPO年次総会に、理事長、事務局員、および小児がん経験者1名の計3名が参加しました。小児がん経験者の参加者は公募の上決定いたしました。

なお、ICCCPO全体の加盟国は2014年度年次総会にて90カ国177団体となりました。
 ※2015年2月17日よりICCCPOは国際小児がんの会 (CCI: Childhood Cancer International) に名称が変更になりました。

PHPF (ParentsHelpingParentsFund) への協力

発展途上国等のICCCPO年次総会参加を支援するための基金「PHPF」に600ユーロの寄付を行いました。また、2013年度の国際小児がんの日キャンペーンで募った募金から一部寄付を行いました。

国際小児がんの日の活動

2月15日は「国際小児がんの日」です。国際小児がん親の会連盟 (ICCCPO:TheInternationalConfederationofChildhoodCancerParentOrganizations) と国際小児がん学会 (SIOP:TheInternationalSocietyofPediatricOncology) は、主に途上国での小児がんの早期発見を促すためのキャンペーンを世界に向けて一斉に展開しており、当会でも様々な活動をいたしました。

国際小児がんの日キャンペーン開催 (2015年2月1日～3月31日)

1) 啓発カードの配布

小児がんのことを広く知っていただくために啓発カードを作成し、約36,000枚を配布いたしました。



2) オリジナルTシャツの頒布

キャンペーンオリジナルTシャツを制作し、寄付金額に応じて頒布いたしました。
 合計約500枚のご協力を得ることができました。

オリジナルTシャツ ▶



3) オリジナルポケットティッシュの配布

オリジナルポケットティッシュを20,000個制作し、啓発活動に活用しました。



◀ オリジナルポケットティッシュ

■キャンペーン関連活動

〈街頭活動等〉

本部・大阪事務所及び全国の支部において街頭啓発活動等を行い、啓発カードとオリジナルポケットティッシュ配布の他、募金活動やイベントを実施いたしました。キャンペーン期間中に19支部、延べ29のイベントを実施し、各地域のメディアでも取り上げられました。また小児がん経験者自身がこの活動に賛同し街頭募金を行いました。

活動風景



トレッサ横浜 (神奈川県)



ゆめマートうきは (福岡県)

キャンペーンの様子はスタッフブログでもご覧いただけます。
<http://blog.canpan.info/nozomi/>

■企業等のご支援

キャンペーンに伴い、多数の企業、個人の方からのご支援をいただくことができました。



●大阪府立母子保健総合医療センター
 血液・腫瘍科の皆さま
 Tシャツを多数ご希望いただいたの啓発協力



●日本生命保険相互会社
 東京職域法人開発室の皆さま
 Tシャツを着用されたの社内チャリティバザーの開催



9 奨学金事業（アフラック小児がん経験者・がん遺児奨学金制度）

当事業は小児がん患児に充実した学校生活を送ってほしいとの想いで設立され、2014年度より奨学金の給付を開始しました（本年度は、小児がん経験者のみを対象に奨学金を給付しました）。

対象者は以下の通りです。

- 対象者**
- ・18歳未満で小児がんを発症し、経済的な理由で高校等の進学・修学が困難な方。
 - ・給付開始時に高等学校等に在学中の方。
 - ・申請時における前年度の世帯収入が当会の定める上限を超えない方。

対象となる教育機関 「高等学校」、「中等教育学校の後期課程」、「専修学校の一般過程及び高等課程」、「特別支援学校の高等部」、「高等専門学校」

- 給付金額**
- ・月額 25,000 円
 - ・対象となる教育機関で正規の最短修業期間。
 - ・奨学金は原則返還を要しません。

本年度実績

申請件数 68 件
 助成件数 30 件
 給付金額 8,550,000 円

10 ボランティアコーディネート・研修会

（1）遊びと学習のボランティアたんぽぽ

「遊びと学習のボランティア たんぽぽ」とは、当会ソーシャルワーカーが福祉系大学に通う学生に呼びかけ結成されたボランティアグループであり、1992年より現在まで、東京慈恵会医科大学附属病院小児科病棟にボランティアを週1回派遣し、入院児を対象に遊びや学習支援活動を行っています。

本年度は、小児科プレイルームでの遊びの支援が主な活動でした。活動を行う上で必要なボランティアメンバー間のミーティングを6回（隔月）、外部から講師を招いてや研修会を2014年10月24日と2月20日の年2回開催し、活動報告及び連絡ツールとして「たんぽぽ新聞」を3回発行しました。研修会に病棟保育士を招き、積極的な連携を図るとともに、同院のボランティア組織「スマイルボランティア-JIKEI」の調整会議及び懇親会にも参加しより良い関係を築きながら活動を行っています。

（2）ボランティアコーディネート

当会事業推進のために、本部事務所（東京）と大阪事務所で延べ311名（自宅での活動を除く）からボランティア協力をいただきました。

また、当会にボランティアとして登録されている方には、ボランティア研修会を実施し、事業内容やボランティアとしての心構えなどへの理解を深めていただきました。

11 調査研究協力

■調査研究委託

2014年度の当会会員を対象にした調査研究の申請は2件あり、調査研究委員会にて審議した結果、被調査研究者の紹介とフォローを行いました。

■研究協力

本年度は下記研究に携わりました。

研究名称	協力内容
「初発の頭蓋内原発胚細胞腫に対する放射線・化学療法第Ⅱ層臨床試験」 松谷 雅生 埼玉医科大学 国際医療センター脳・脊髄腫瘍科	実行委員会委員

12 2014年度年次大会開催

2014年6月8日、飯田橋レインボービル（東京都新宿区）にて年次大会を開催しました。今年度は新たな試みとして、小学生を対象とした子どもプログラム「からだのしくみ」、「画像診断教室」を開催しました。

全体会	分科会
理事長挨拶	1 個別医療相談
活動報告	2 子どもを亡くした両親のために
講演	3 小児がん経験者
「小児がん医療の現状とこれから」	4 きょうだい
松本 公一先生（独）国立成育医療研究センター 小児がんセンター長	5 社会活動
	6 小児がん経験者の自立・就労



寄付・募金者一覧

(2014年4月1日～2015年3月31日)

13 企業・団体からのご協力 (敬称略・順不同)

物品寄付

アフラック広報部、アフラック近畿総合支社、アフラック大阪総合支社、アフラック大分支社、アフラック保険サービス株式会社、AIG 富士生命保険株式会社、株式会社大和証券グループ本社、JX ホールディングス株式会社、子供地球基金、株式会社スタイリングライフ・ホールディングスプラザスタイルカンパニー、西洋フード・コンパスグループ株式会社、一般社団法人日本児童家庭文芸家協会、一般社団法人霞会館、株式会社ガイア、コールマンジャパン株式会社、MAMMUTSPORTSGROUPJAPAN、第一生命労働組合、セカンドハーベスト・ジャパン、有限会社フロムジャパン、株式会社保険オフィスさとう、株式会社第一総合企画、DHL ジャパン株式会社 (営業本部/西日本統括営業部)、奈良生駒高速鉄道株式会社、毎日新聞 (事業本部)、株式会社近江屋、椋山女学園大学、第一生命保険株式会社 (関西総局 FP コンサルティング部)、第一生命保険株式会社 (コンタクトセンター統括部/大阪コンタクトセンター)、大同生命保険株式会社 (渋谷支社第2 営業課)、CFJ 合同会社、株式会社アルマダ、加藤活文堂、ローソン浜寺石津西4 丁店、他

ご招待

アフラック (アメリカンファミリー生命保険会社)、認定特定非営利活動法人朴の会、エーザイ株式会社、東芝メディカルシステムズ株式会社、一般社団法人日本メイスン財団、柏レイソル、毎日新聞社、川島成道音楽事務所、ひとつの会、栗山巧 (埼玉西武ライオンズ)、他

募金活動、他ボランティア活動

明治安田生命保険相互会社 (営業人事部)、ライフテクノロジーズジャパン株式会社、吉田デザイン事務所、株式会社なゆた、アフラック大阪総合支社アソシエイツ会、BC ホールディングス株式会社、第一生命保険株式会社 (コンタクトセンター統括部/大阪コンタクトセンター)、他

～その他、支部においてもたくさんの企業・団体さまからご支援いただきました～

寄付者一覧

※敬称略

AGC マイクロガラス株式会社	石川 幸雄	梅根 眞知子	勝井 豊
AIG 富士生命保険株式会社	石田 久美	梅村 清春	勝瀬 求
CBC 株式会社	石橋 潤	永大丸小児科医院	桂川 尚司
CoeurHair	石橋 文子	江頭 純子	加藤 仁義
HarveyPaulA.S.	石原 節子	江崎 美保	加藤 孝
JFE 商事株式会社	石原 貴泰	榎本 武	加藤 友和
JFE スチール株式会社	泉 由幸	江原 真実子	加藤 廣久
JX ホールディングス株式会社	磯部 直美	遠藤 明	門田 かず子
KC めぐみ 石山 智重子	井田 正美	大浦 幸子	金山 直司
LEEBENGCHIANG	板垣 松平	大浦 義範	金子 武行
MSD 株式会社	市川 真基	大江 常子	金子 正幸
NeilMcInnes	市川 瑞穂	大江 登美子	兼松 菜穂子
NPO 法人 酒は未来を救う会	一木 恵子	大木 綱雄	兼松株式会社
NPO 法人 目黒ユネスコ協会	一瀬 すみ	大久保 一恵	株式会社 アコーセラミック
NPO 法人 Nプロジェクトひと・みち・まち	市村 幸一	大久保 照子	株式会社 一の宮カントリー倶楽部
認定NPO法人 ゴールドリボン・ネットワーク	一般財団法人 医療情報健康財団	大蔵 隆彦	株式会社 梅原洋紙店
REDNOSEJAPANPROJECT 実行委員会	一般財団法人 凸版印刷三幸会	大栗 二郎	株式会社 エビデンス社
TRYJazzMusicOffice 有村 よう子	一般財団法人 日本メイスン財団	大澤 幸子	株式会社 草むしり
Umi のいえ	一般財団法人 緑風会	大島 泰子	株式会社 資生堂
相川 勝	一般社団法人 信託協会	太田 賢一	株式会社 デンソー
相澤 万亀子	一般社団法人 生命保険協会	太田 為治	株式会社 なでこプランニングチーム
愛知製鋼株式会社	一般社団法人 全国銀行協会	太田 浩史	株式会社 ファームうきは
會津 正明	一般社団法人 中外 Oncology 学術振興会議	大津 真由美	株式会社 福新楼
青木 千賀	一般社団法人 日本ガス協会	大坪 光美	株式会社 北海道パークゴルフコンサルタント
青柳 亜季	一般社団法人 日本建設業連合会社会貢献活動協議会	大原小児がん基金	株式会社 悠香
赤崎 恵美子	一般社団法人 不動産協会	大引 啓次	株式会社 GUN・I
赤根 宏行	伊藤 明子	大見 サキエ	株式会社 MiciaLuxury
秋田 由紀美	伊藤 尚子	岡田 教子	株式会社 OKAZAKI
秋山 由美子	伊藤忠商事株式会社	岡田 洋子	株式会社 アイドマ
浅井 智美	稲垣 たまえ	岡田 和睦	株式会社 アダストリアホールディングス
浅野 通直	稲田 浩子	岡部 照比古	株式会社 エス計画
アサヒグループホールディングス株式会社	稲葉 智一	岡村 純	株式会社 オフィス S・I・C
浅見 美紀	稲畑産業株式会社	岡本 幸一	株式会社 キャンパスサポート西南
浅見 恵子	井上 雅美	岡本 武	株式会社 クボタ
熱田 裕	いのちのことば社	岡本 晴美	株式会社 グローウィング
アプカム株式会社	伊野波 盛郁	岡本 光代	株式会社 神戸製鋼所
虻川 多嘉子	伊野波 盛俊	小川 純子	株式会社 晃和ディスプレイ
アフラック 横浜支社	今井 高行	奥 マサ子	株式会社 材料屋
アフラック三重県アソシエイツ会	今井 正	奥野 達也	株式会社 サンジェルマン 吉村 幸一
阿部 妃代	今泉 英明	小倉 一夫	株式会社 三平商会
阿部 正弘	今西 達俊	小倉 孝子	株式会社 サンボウホテルベラヴィータ
アボットジャパン株式会社	今本 達夫	尾崎 亜矢子	株式会社 セント・フォース
天瀬 毅	井村 律子	小澤 未央	株式会社 ソシア
天野 功二	医療法人 いのうえ小児科	押淵 玲子	株式会社 高橋組
新井 裕子	医療法人 DIC 宇都宮セントラルクリニック	落合 仁	株式会社 東海日動パートナーズ東海北陸
新井 正男	岩越 祥晃	小野 智久	株式会社 なゆた
荒木 真悟	岩崎 淳子	小野 裕也	株式会社 日幸金属工業所
安斎 紀	岩崎 弘恭	おのうえこどもクリニック	株式会社 日本製鋼所
安藤 頼枝	岩瀬 孝志	海田 由美子	株式会社 ニヤクコーポレーション
安藤 なおゆき	岩谷産業株式会社	貝沼 雅彦	株式会社 ビーエル
飯田 雅史	岩本 雅也	花王株式会社	株式会社 日立ハイテクノロジーズ
飯塚 敦夫	岩本 より子	香川大学医学部付属病院	株式会社 ファンコミュニケーションズ
五百川 麻子	上田 充	垣内 愛子	株式会社 福新楼
五十嵐 千年	上野 佳子	柿原 幸江	株式会社 プラスワン
石井 壮	植村 敏子	影澤 政一	株式会社 メディカルプロジェクト
石井 隆	臼井 秀則	笠井 功治	株式会社 コメテラス
石上 久美	内田 裕之	笠井 千晴	株式会社 淀川製鋼所
石川 孝成	内田 道治	笠原 秀幸	亀田 光治
石川 千華	内野宮 ふよ子	梶原 敦子	鴨下 叔弘
石川 徳光	内海 治郎	梶原 武	香山 智恵美
石川 春美	梅田 竜嗣	片倉 政人	軽部 裕美子



河合 洋子	堺 久枝	積水ハウスマッチングプログラムの会	豊田 純子
川口 弘二	酒井 あゆみ	全栄企画株式会社	豊田通商株式会社
川田 健太郎	坂口 公祥	セントバルトリクスファウンデーション	鳥越 昇二郎
河田 誠也	坂田 年	双日株式会社	内藤 真一
川村 隆志	坂詰 松美	曾我 高臣	内藤 孝
神田 陽子	酒徳 浩之	内藤 龍平	内藤 龍平
菊地 まゆみ	鷺山 美智子	中井川 明子	中井川 明子
岸田 恭二	桜井 なおみ	中尾 憲治	中尾 憲治
岸本 新平	桜井 祐記	中島 功博	中島 功博
喜多 幸之助	笹川 裕幸	中島 恵子	中島 恵子
北郷 幸代	笹川 泰弘	中島 久子	中島 久子
北原 義明	笹森 真木男	長瀬産業株式会社	長瀬産業株式会社
北村 龍彦	佐藤 恵美子	長田 直子	長田 直子
北村 基郎	佐藤 穂恵	中田 政和	中田 政和
キッコーマン株式会社	佐藤 貴虎	永利 義久	永利 義久
来海 秀次郎	佐藤 貴虎ゼミ	中野 千栄	中野 千栄
木村 建	佐藤 直久	中野 洋子	中野 洋子
木村 多加志	佐藤 浩	長嶺 三枝子	長嶺 三枝子
木村 菜美子	佐藤 光子	中村 克彦	中村 克彦
木村 守	佐藤 稔	中村 佳子	中村 佳子
きもべつ喜らめきの郷	サノフィ株式会社	中村 裕子	中村 裕子
九州大病院	澤田 敦子	中村 良樹	中村 良樹
教龍寺 住職 藤本 龍美	椎名 延年	仲本 千佳子	仲本 千佳子
協和発酵キリン株式会社	シェイクハンズ!	成田 幸子	成田 幸子
銀座 一穂堂	塩井 かやの	成田 隆澄	成田 隆澄
楠井 晶	塩川 正人	名和 久子	名和 久子
久保	塩谷 咲枝	南部 昌弘	南部 昌弘
久保田 一男	四方 佳子	南部 美弥子	南部 美弥子
窪田 正幸	四国フィルハーモニー管弦楽団	新村 昌弘	新村 昌弘
隈崎 哲也	七野 浩之	西尾 隆	西尾 隆
熊崎 裕文	室内 由香	西岡 裕美	西岡 裕美
熊本歯科衛生士専門学校	篠井 智恵子	西口エンタテイメント株式会社	西口エンタテイメント株式会社
クリアゴルフフィールド	篠田 章	西田 正三	西田 正三
黒岩 立子	篠原 慶子	仁科 孝子	仁科 孝子
黒川 征治	柴田 和子	仁田原 浩明	仁田原 浩明
黒木 智	柴田 俊久	日新製鋼株式会社	日新製鋼株式会社
黒羽 薫	渋江 美恵子	日鉄住金物産株式会社	日鉄住金物産株式会社
桑原 義信	澁谷労務管理事務所	二宮 和也	二宮 和也
栗山 巧	島 治伸	二宮 法久	二宮 法久
げんき保育園	島田 健司	日本製紙連合会	日本製紙連合会
公益財団法人 原田積善会	清水 信	日本生命保険相互株式会社 東京職域法人開発室	日本生命保険相互株式会社 東京職域法人開発室
公益財団法人 毎日新聞大阪社会事業団	清水 孝	日本チャールス・リバー株式会社	日本チャールス・リバー株式会社
公益財団法人 毎日新聞西部社会事業団	志村 朱美	日本労働組合総連合会	日本労働組合総連合会
公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団	志村 節子	認定特定非営利活動法人 ファミリーハウス	認定特定非営利活動法人 ファミリーハウス
公益財団法人 がんの子どもを守る会を応援する会	志村 節子	野口 智子	野口 智子
高坂 美恵子	志村 節子	野地 巴奈	野地 巴奈
合同会社こころむすび	志村 節子	野島 尚恵	野島 尚恵
興和株式会社	白井松新薬株式会社	野瀬 淳子	野瀬 淳子
古賀 友紀	白神 洋子	野中 淳代	野中 淳代
コカ・コーラ一ストジャパン株式会社	眞尾 貴年	ノバルティスファーマ株式会社	ノバルティスファーマ株式会社
コカ・コーラウエスト株式会社	榛地 幹雄	延 哲也	延 哲也
古賀印刷株式会社	新日鐵住金株式会社	延田 尚史	延田 尚史
小島 利昭	末延 聡一	野村 信幸	野村 信幸
小島 昌子	菅谷 光雄	野村 マリ子	野村 マリ子
後藤 千恵	菅野 淑子	橋井 康二	橋井 康二
後藤 雅	杉田 孝	橋口 正子	橋口 正子
後藤 美紀	杉本 洋一	橋田 桂二	橋田 桂二
小林 宗一	鈴木 亜津子	橋部 浩平	橋部 浩平
小林 貴浩	鈴木 京子	橋本 里実	橋本 里実
小林 ひろみ	鈴木 佐代子	長谷川 伸布子	長谷川 伸布子
小林 美奈子	鈴木 千穂	長谷川 葉子	長谷川 葉子
小松 敏彰	鈴木 久夫	パナソニック株式会社	パナソニック株式会社
駒村 幸雄	鈴木 美文	濱 克彦	濱 克彦
小峰 峰子	須藤 壯太郎	濱田 諭奈	濱田 諭奈
小宮 毅	住友商事株式会社	浜谷 秀孝	浜谷 秀孝
ザ・レジェンド・チャリティプロアマトナメント実行委員会	諏訪二葉高校同窓会 東京支部	早川 晶	早川 晶
齊藤 茜	聖路加国際病院ボランティアグループ	早川 英子	早川 英子
齋藤 聡	関 多津子	林 修治	林 修治
齋藤 誠	関 真幸	林 志郎	林 志郎
佐伯 洋俊	積水ハウス株式会社	林 富	林 富

林 雅彦	細井 廣一	宮田 恵美	山本 和加子
速水 節子	細川 陽一	宮田 淳子	有限会社 築地にっしん太助
原田 庸江	細川真珠株式会社	宮の台幼稚園バザー委員会	有限会社 松田興業
阪本 哲男	細田 裕美	牟田 謙一	有限会社 吉半
阪和興業株式会社	ほのぼのサロン	牟田 寿恵	有限会社 アトリエ・デ・くつきいず
東出 公一郎	堀川 哲男	村上 智是	有限会社 大瀧設備事務所
樋口 明子	堀口 恵理	村上 洋子	有限会社 キャピタル
ピッコロ・グランデ・コンチエルト 小島 エマ	堀本 千恵	村越 美香	有限会社 三響会企画
樋野 善弘	前川 雅子	村本 君代	有限会社 仁榮
平 哲也	前田 美穂	目黒 正彦	有限会社 ミートステーション
平井 五郎	横 富貴子	木曜会	有限会社 山川土地建物
平井 博夫	政岡 学	元田 雅弘	有限会社 友愛
平石 のり子	増田 明雄	森河 由美子	有限会社 ユーサン
平山 忠之	増田 勝治	森重 健太郎	有限会社 ライフクロカワ
廣村 努	松井 秀文	森下 宣子	有限責任事業組合 チャイルドケア研究所
ファミリーダ・ラーマン	松岡 義典	もりの木こどもクリニック	ゆうた
吹田 健吾	松阪 直美	森山 利子	横浜冷凍株式会社
福岡聖書キリスト教会	松永 憲一郎	安井 雄三	横溝 航平
福島 猛	松原 まゆみ	柳澤 隆昭	横溝 美野里
福寿 真由美	松原 善明	山内 嘉彦	吉岡 佑樹
福生 泰彦	松本 敬子	山岡 祐輝	吉川 隆
福田 佳子	松本 千賀子	山口 哲三朗	吉川 有美子
ふくなが保険事務所 福永 博文	松本 光代	山口 利夫	吉田 文隆
福原 卓也	松本 陽代	山崎 晃	吉田 康雄
福吉 幸子	丸岡 文雄	山崎 貴子	吉野 美緒
藤井 克己	丸紅株式会社	山崎 文之	吉松 安子
不二聖心女学院 温情の会	丸山 謙一郎	山崎 睦子	義村 みつ
富士ゼロックス三重株式会社内	三浦 厚子	山下 恵理	米倉 邦子
藤田 昶子	三川 勝夫	山下 公輔	米原 紘一
藤田 美子	水柿 多香子	山下 伸治	米原 チドリ
富士電機株式会社	水島 正人	やましる小児科 山城 武夫	米山 望
藤平 一雄	水代 富雄	山田 勝三	ライフテクノロジーズジャパン株式会社
藤村 香織	みちくさ	山田 浩之	ラッセル・インベストメント株式会社
藤村 由貴子	三井 妙子	ヤマトコーポレーション有限会社	李 オル
二井 立恵	三井造船株式会社	大和地 敬行	リプラス株式会社
二井内 紀代子	三井物産株式会社	山室 達夫	リンク・ヘルスケア株式会社
フリースクールオンリーワン	光野 優	山本 章子	ロート製薬株式会社
古田 友明	三菱商事株式会社	山本 暁彦	若杉 和枝
ブルデンシャル生命株式会社 富山支社	三菱電機株式会社	山本 勝也	脇 千香江
ブルデンシャル生命保険株式会社 福岡支社	宮木 聖恵	山本 哲也	ワタキューセイモア株式会社
古本 恵子	宮城 智央	山本 信江	和地 誠
普連土学園 宗教委員会	三宅 綾子	山本 均	
ヘルテックレーディング株式会社	宮澤 敦子	山本 博三	

上記の他、アフラック（アメリカンファミリー生命保険会社）、アフラック販売代理店及び社員の皆様には、ペアレントハウス、ならびに小児がん経験者・がん遺児奨学金制度の運営をはじめとした当会の活動に数多くのご寄付（7,437件）を通じて、ご支援をいただきました。

匿名ご希望の方からも多数ご寄付をいただきました。

募金者一覧

※敬称略

「伝統芸能の今」 AIG 富士生命保険株式会社 RINNA ShopART USHIO 麻の会 井出 節子 大平町商工会青年部 おの歯科医院 おばんざい処 嘉づき 株式会社 FortuneKK 株式会社 エイト西 萩勝手口ひまり屋 株式会社 デファイ 株式会社 プレミアバンク 株式会社 ユメテラス 株式会社 ライフクリエイト 吉祥寺 ひまり屋 キャピタル・パートナーズ証券株式会社	神戸フィルハーモニック 酒は未来を救う 支え合おう未来に向かって 佐藤 貴虎 商工会青年部ゴルフコンペ実行委員会 鈴鹿医療科学大学ボランティアセンター 住友生命相互会社アピア富田林支部親睦会 聖路加小児医療センター 聖路加メサイア ソフトバンクモバイル株式会社 第一生命保険株式会社 大阪コンタクトセンター 第一生命保険株式会社 東京コンタクトセンター 第一生命保険株式会社 福岡コンタクトセンター 東京ジュニアオーケストラソサエティ 特定非営利活動法人 はばたく夢ロボット 新納 悟 日蓮宗 妙像寺	日本ベクトン・ディッキンソン株式会社 日本労働組合総連合会 パラエティーションショップ舞桜 兵庫子ども支援団体 文京区総合体育館 北京 高棚店 巻島 真奈美 明治安田生命保険相互会社 営業人事部 明治安田生命保険相互会社 桜町営業所 明治安田生命保険相互会社 千住支部 明治安田生命保険相互会社 東京FC支社 明治安田生命保険相互会社 直方営業所 明治安田生命保険相互会社 水島営業部 明治安田生命保険相互会社 労働組合大分支部 明治安田生命保険相互会社 労働組合金沢支部 明治安田生命保険相互会社 労働組合熊本支部 明治安田生命保険相互会社 労働組合埼玉支部	明治安田生命保険相互会社 労働組合埼玉支部 明治安田生命保険相互会社 労働組合立川支部 明治安田生命保険相互会社 労働組合富士支部 明治安田生命保険相互会社 労働組合丸の内支部 矢田 美麗 ヤフー株式会社 有限会社 築地につしん太助 有限会社 興水酒店 有限会社 酒ハウスヤマヤ 有限会社 マキシム 有限会社ミートステーション ライフテクノロジーズジャパン株式会社 リサイクルルームフォレスト 林 かおり 良酒処 さぶん酒店 レスリーチャンバースデー募金 ローソン浜寺石津西4丁店 渡邊 健太郎
---	--	--	---

他、多くの方からご支援をいただきました。ありがとうございました。

※当会では寄付金について以下の通り取り扱っております。

- 寄付：特定の個人や法人から集まった寄付金
- 募金：不特定多数の方からの支援金（募金箱やイベント会場等）

公益財団法人がんの子どもを守る会2014年度事業報告書

2014年4月1日～2015年3月31日

2015年6月8日 発行

公益財団法人がんの子どもを守る会

〒111-0053 東京都台東区浅草橋1-3-12
 TEL03-5825-6311(代表)